

第1回『コミュニケーション支援を考える前に』

坂井 聡 先生コラム

コミュニケーション支援を考える前に、「自立」についてどのように考えるのかを明らかにしておきたいと思います。私は、コミュニケーションできるようになることを支援することは、「自立」を支えるためには欠くことができないことだと考えているからです。

さて、みなさんは、「自立」という言葉を聞いてどのようなイメージを持っているのでしょうか？

ある人は職業について働くようになったら「自立」したと言うかもしれません。ある人は自分でいろいろなことを決めることができたらそれを「自立」と考えるかもしれません。どちらも何となくわかりますが、それが「自立」かと問われると、それだけではないようにも思います。「自立」ということがよくわからないままに、その言葉があいまいに使われているから、その時々によって意味が変わってしまっているのかもしれませんが。また、「自立」という言葉を聞くと、どのような意味で使われているのかもはっきりしないことが多いのではないかと思います。「自立」という言葉を使っている人自身も、「自立」という言葉をどのような意味で使っているのかをあまり深く考えていないのではないかと思います。

しかし、ここでは「自立」という言葉をあいまいにしたまま話を進めることはできません。なぜならば、コミュニケーション支援と「自立」は切っても切れない関係にあると思うからです。ですから最初に、「自立」をどのように考えるのかを明らかにしておきたいと思います。「自立」ということばを考える上で参考になるのが、社会福祉基礎構造改革についての骨子です。社会福祉基礎構造改革の骨子と聞いただけで、何か難しいことが書いてありそうなので、敬遠してしまう人もいるかもしれません。ですが、ここには、「自立」について考える際のヒントが、とてもわかりやすく書かれています。ちょっと紹介しておきましょう。

このなかでは、社会福祉の理念について、「個人が尊厳を持ってその人らしい自立した生活が送れるよう支える」というように書かれています。

ここに書かれていることはどのようなことなのかその意味を考えてみましょう。ここでは、その人が生きていくことを支えるだけでは、「自立」を支えたことにはならないということが書かれています。「自立」を支えるためには、生きていくことを支えるだけでなく、尊厳をもって生きることができるように支えなければならないということなのです。

対象となるその人が尊厳をもって生きていくことを支えるためには、何が必要なのでしょう？尊厳をもって生きるためには、周囲の人がその人が存在すること自体をすばらしいと認める必要があります。周囲の人がその人の存在を認めないところには、尊厳は存在しないからです。このように考えていくと、「自立」ということばのもつ意味が少し理解できてくるのではないのでしょうか。周囲の人に認められながら、尊厳ある人としてその人らしく生きるということなのです。

障がいのある人を認めるということは、その人のありのままを認めるということです。その人と付き合っていくということです。その人自身も自分のもっている障がいと付き合っていくということです。それぞれが障がいとうまく付き合っていくことができたときに、尊厳をもって生きることを支えることができるようになるのではないかと思います。人と人とが付き合っていくためには、いろいろな場面でコミュニケーションする必要があります。コミュニケーションをとることができないと、付き合っていくことができないからです。お互いが意思を伝え合うことができ始めて、対等な立場で付き合っていくことができるということです。コミュニケーションをとることができるようになることは、とても重要なことなのです。

次回からは、コミュニケーションをとることができる環境とはどのような環境なのか、そんなことも考えながら話題を提供していきたいと思います。しばらくの間お付き合いください。